



学校法人志賀学園  
久之浜こども園  
令和6年11月30日

園庭を吹き抜ける風も冷たくなり、木々の葉っぱも寒そうに揺れて舞っています。園庭には子ども達の寒さに負けない元気な声が響いています。

先日行われた『福島県私学振興大会』で『スポーツの力で地方創生と人生を学ぶ』という記念講演を聞いて参りました。講師の先生は、PL学園高校から立教大学に進み、甲子園ではベスト8、東京六大学野球史上2人目の完全試合を達成した上重聡さんでした。上重さんはテレビ局入社後「スッキリ」「シューイチ」等の司会を担当された後、現在はフリーアナウンサーとして活躍されています。

上重さんが地元の少年野球チーム「八尾フレンド」に入ったのは小学2年生の時でした。親から勧められたわけではなく、毎年全国大会に出ている強豪チームに憧れ、自分の意思でそのチームに入ったそうです。「八尾フレンド」が強い訳は、指導者が野球の技術が高い人ばかりではなく、挨拶の仕方、道具の磨き方など、人格を形成するうえで大事なことを教えてくれる地元の大人がいてくれたことでした。

美味しいご飯を炊くには何が大事か？最初にお米を研ぐ時に美味しい水を使うのが秘訣だそうです。その後に美味しい水で炊いても意味がなく、お米が水を吸う最初の時に美味しい水を使うのが大事。それと同じく「早い時期に良い環境で育つことが大事！」「スポーツでいうと、早い段階で頑張るということを身につけることが大事！」上重さんは美味しい水を小学2年生の時から与えてもらったと思っているそうです。それは家庭環境も同じことで、上重さんのご両親は子どもの話をよく聞いてくれ、「自分の言葉に責任をもつこと、決断は自分です」ということを教えてくれたそうです。当然反抗期もあり、親と子の関係が難しい時期もあったそうですが、ご両親は程良い距離感を保ち、程良い関係性で乗り越えたそうです。まさに、顔と顔を突き合わせてお説教をするのではなく、同じ方向をみて論ず、横並びの関係だと思いました。上重さんのお話から、親の愛情を十分受けて育った子どもは、親に感謝する大人に成長するのだなあと思いました。保護者の皆様におかれましては、これまでもこれからも子育ての真ただ中ということで、大変なこともたくさんあるかと思いますが、周囲の方々のアドバイスやお力を頂きながら、家族が助け合って子育てを楽しんで頂きたいと思っております。

12月7日(土)には生活発表会控え、5歳児は「十二支のお話」の絵本から、ペープサート、劇ごっこ、そして言語劇へと保育が繋がり、子ども達の主体的な姿が日々見られます。また小さいお子様達もダンスの曲に合わせ表現活動を楽しんでいます。インフルエンザが流行っていますが、皆さん当日までには体調を整えて参加出来ますこと、そしてご家族でよい時間を過ごせますことを願っております。